

和 わ 和

第6号

発行・編集 奈良県障害者スポーツ指導者協議会
 〒636-0344 奈良県磯城郡田原本町宮森34-4
 奈良県心身障害者福祉センター内
 TEL 0744-33-3393 FAX 0744-33-1199
 ホームページ http://narakyougikai.holy.jp/
 メールアドレス narakyougikai@fm.holy.jp
 現在の会員登録数 215名 (上級7名 中級39名 初級169名 平成22年7月31日現在)

奈良県障害者スポーツ指導者協議会
 会長 近藤 脩

障害者スポーツ指導員の役割

ながら、数年経過するとスポーツ指導員の登録をしない人がいることです。その原因にはいろいろあるでしょうが、資格を取ってみたいが何をしようか分からないとか、障害者と接する機会がない、という

本年七月末現在の障害者スポーツ指導員の登録数は、全国で二万七千名余となっております。本県での指導員の登録数は全国のちょうどパーセントの二百十五名(上級七名、中級三十九名、初級百六十九名)です。問題はここ数年、この数が減少傾向にあることです。せっかく養成講座を受講しスポーツ指導員の資格を取り

ような意見が多いと思えます。このような方は、障害者スポーツをむつかしく考えすぎではないかと思えます。そこで障害者スポーツ指導員は具体的にはどんな活動をしたらよいのかを考えてみたいと思います。とくに初級指導員の方に



雨の中でのスラロームの審判

は身近なところで行われる大会の受付や記録、放送、駐車場の整理など「大会総務」といえる仕事のお手伝いをしていただくことです。どんな大会でも「大会総務」を担う方がいないと大会は成功しません。また障害者の介助等に精通されている方には選手への介助や誘導、できる方には手話通訳などやっていただく。ある種目のスポーツに精通されている方にはクラブでの練習会や大会に同行をお願いする仕事もあります。

中級や上級の指導員の方は大会の審判やクラブでの技術指導など、活躍の場面はいくらでもあります。本県では毎年四月から五月に県障害者スポーツ大会が開かれます。「大会総務」といえる仕事

は人手が必要です。また大会出場を目指す選手の練習、各クラブの日常の練習や指導に、皆さんの力を期待する場面は数多くあります。当協議会主催の毎月のスポーツデーや県障害者スポーツ協会主催の軽スポーツフェスタや教室などで障害者の方と一緒にスポーツを楽しんでいただくのも有意義だと思います。皆さんが養成講座を受講した時の初心を忘れずに、障害者の方と一緒にスポーツに気軽に参加してください。多くの障害者の方々も皆さんの参加を待っています。

平成22年度残りのスポーツデー日程
 いずれも土曜日、午前10時から正午まで
 場所：奈良県心身障害者福祉センター体育館
 1月22日 2月19日 3月19日

第10回全国障害者スポーツ大会
ゆめ半島千葉大会帯同記

今年の全国障害者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会」は十月二十三日から二十五日まで千葉県で開かれ、奈良県から個人競技では陸上、水泳、フライングディスク、卓球、ボウリングの五競技に十九人の選手が参加、また団体競技として四年ぶりにソフトボールチームが参加、日ごろの練習の成果を発揮して健闘しました。



（千葉大会のマスコット
チーバ君と橋本選手）

ボウリング競技

監督 島岡 眞

十月二十四日（日）、千葉市にある千葉リバーレーンに会場に、女子選手一名と競技に参加しました。会場は全国から集まった選手たちで緊張感が張りつめていました。そんな雰囲気の中、一組七名、4ゲームの合計スコアで競技が開始されました。第1ゲームはまずまずのスコアで二位。しかし、第2ゲームは調子が出ず、スコアが伸びず順位が後退。休憩を挟んで後半戦が開始。いつもの調子で2ゲームを無難に消化して終了。第2ゲームのスコアが響いて惜しくも四位の成績でメダル獲得はなりませんでしたが、ボウリングは非常にメタリックなスポーツです。上位の選手も普段のスコアより良かったと監督が話していました。練習の成果もむなしく好不調の差が勝敗を決定したようです。奈良県代表に選ばれてからは、練習にも力が入ってアベレージも上がって決して調子が悪い訳ではなかったのですが、結び結果が出なかったようです。



（千葉大会のマスコット
チーバ君と橋本選手）

今回参加して感じたことは選手の養成に対する練習の機会の確保と、コーチとしての指導の方法です。いつでも気軽に練習できるゲーム場ときつちり指導できる指導員がいる環境を整備することが大切だと思いました。練習を個人に任せるのではなく、スポーツ協会の中のクラブチームとして活動できるようにするなどの方法をとり、我々、障害者スポーツ指導員と一緒にボウリングを楽しめるようになれば選手の技術向上につながるのではないのでしょうか。今後の奈良県選手団の活躍を期待して報告とします。

水泳競技

監督 伊藤 千代

男子三名、女子一名の参加となった今大会で、女子は二度目の参加ということもあり、緊張感の中にもゆったりとした空気を漂わせていました。男子も少しテンションは高いものの、レース前の練習や公式練習も無事終了し、本番に備えました。初日の男子25m自由形の最速といってもいいメンバーが揃っており、スタートと同時にほぼ順位が見えていましたが、スピード感のある泳ぎで自己ベストを出しました。二日目は四名全員がレースとなり、女子は

二種目で優勝。男子は25mバタフライ、50m自由形でともに二位、50m自由形は二位でしたが一位の選手とともに大会新記録を出しました。50m自由形出場の高校生二名はともに三位に入賞しました。最終日、50mバタフライは、他種目で二位に入賞し好記録で泳いでいる有力選手と同組でレースをしましたが、隣のコースの選手（大会新で優勝）によくついて行き、後半頑張つて五位、自己ベストを記録しました。サポートについてはいただいた千葉県職員やボランティア女子大生の方が、選手への声かけや付き添いに心を配ってくださったことで、



（水泳の選手達）

緊張の中のレースでしたが、自分の持つ力を一杯出し切ることができました。各選手が納得と満足感を胸に大会を終えることができたことに感謝いたします。

フライングディスク

監督 森下 凌佑

十月二十二日（金）午前九時から青葉の森スポーツプラザ陸上競技場での公式練習から私たちの大会が始まりました。那須、竹中、澤山の三選手は、みなりラックスして練習のぞみ、それぞれに好記録を出し、よいイメージで終わりました。ただ十分な練習時間が取れなかったように感じました。



（FDチーム
オールキャスト）

競技一日目はアキュラシー。試合会場に着してみると競技開始まで時間が短く、緊張からか気持ちを作る余裕もないまま肩に力が入った状態で試合に臨んでしまいました。この結果、三人とも平凡な記録にとどまっ

てくれた。那須選手は他の選手のことなど、いろいろなこと気に使い、まわりを支えてくれた。選手それぞれが個性を出し、チームとしてまとまって大会を楽しんでくれたと思います。

ソフトボール競技

監督 濱田真人

久しぶりの全国大会ということで、選手スタッフ共に近畿大会終了後、全員が、スライディング技術を身につける」という課題を掲げて練習に励みました。また、八月十四日(土)十五日(日)には、現在全国大会に参加しているチームの力を知るために1泊2日で岡山県へ遠征し、前年度全国大会優勝チーム岡山県との練習試合も行いました。そして練習試合後、「お互いに1回戦ではなく決勝戦で対戦したいですね」と話していたのですが、なんと今回1回戦での対戦となりました。

(ソフトボールベンチ風景)



た。実は、埼玉大会参加の時にも同じようなことがありました。試合当日、天気も良心身そして環境とも最高のコンディションで臨むことができた。しかし、結果は5対1の敗戦でした。試合を通して改めて感じたことは、一つのプレーが流れを変えてしまつたという怖さでした。(参考までに、今大会は岡山県の2連覇で幕を閉じました)

大会終了後一つ一つのプレーを大切にすることを新たな課題として、三十三名の選手たちが毎週楽しく明るく元気よく「ぼちぼちいかか」を合言葉に練習に取り組んでいます。

陸上競技

コーチ 岡林正紀

私は、障害を持っており、以前は陸上の選手として過去2回全国障害者スポーツ大会に出場しております。しかし、今回は障害者初級指導員の資格を取ったこともあり、初めて陸上コーチとして全国大会に参加しました。まず、最初の仕事は強化練習でした。強化練習も過去に参加したことがあるのでその経験を生かし、しっかりと練習できたと思います。ただ、全員日頃からあまり練習ができていないと感じました。練習環境がない人、環境はあるが指導者がいない人、様々でした。だから、もう少し練習の回数を増やしたり、練習ができる環境作りもしていけたらと思います。

大会の時は、すべての選手のウォーミングアップを一緒にしたのでかなり忙しく、招集

場所への誘導はボランティアの学生にお願いしたり、周りの方に協力していただきました。今回私が、選手の練習に専念することができたのはボランティアのおかげです。やはり障害者スポーツはボランティアの力なくしては成立しないと改めて実感しました。試合では、選手も力を発揮し、メダルを獲得したり、惜しくもメダルに手が届かず悔しい思いをしたり、全力を出し切って満足した選手たち、様々でしたがなかなか有意義な大会になったと思います。今後は、今回の大会

卓球競技

役員 今西 克巳

で活躍した選手はもちろんです、障害者スポーツをしている人たちがさらに活躍できる場をもてるよう、私たち指導者もしっかりサポートしていきたいと思います。

役員として七日間、大会に参加させていたいただきました。大会を通じて感じたことは、選手たちが大会に向けて環境の変化また精神的・肉体的にコンディションを崩すことなく、ベストの状態に臨めるようにサポートすることが必要だ、ということだと思います。三人の選手たちがいかにしてよい成績を上げてもらえるかを常に考え、また、自分のもてる最大の力を発揮し、自己ベストを創る」などの環境を指導者の下で作り出すこと、競技だけでなく人間関係や心の広さを養うことも目標に強化練習に臨んだと思います。

試合終了後、あまり成績がよくなく自分自身がメダルを取れるか不安になり、投げやりな気持ちになった選手がいました。「自分が今持てる力を十分に発揮したのだから、何も恥ずかしいことはない、頑張り抜いただろう」の声かけにも応えてはいましたが素直な気持ちになれなかったようです。しかし結果としては、三人ともメダルを獲得、頑張ったという晴れ晴れとした表情を浮かべ、選手、役員は喜びに包まれました。我々指導者の役割は、ノーマライゼーションの基本理念の下で技術的(障害にあった全般的なこと等)なことを直接指導することも大切ですが、人間性を養うのも大切な役割だと思います。今回の大会では、地元ボランティア・選手・役員は、競技だけでなく、生活の中でも和気あいあいと接し、楽しく過ごしました。選手たちは、これからの人生においてこの大会で頑張ったことを



(陸上の選手・役員)

(ともにメダルを獲得した高等養護勢)



思い出し、たとえ困難に当たっても挫折するることなく力強く前進してください。

編集後記

機関紙「和和」第6号をお届けします。今回は一面に掲載しました近藤会長の「障害者スポーツ指導員の役割」に代えて、指導員の今年の活動の特集しました。いいお年をお迎えください。(山田 記)





陸上競技会サポートの面々

今年もがんばりました！



FD大会審判員



卓球強化練習ボールパーソン



ウグイス嬢……？

障害者スポーツ指導員って何をすればいいの？
 資格を取得したのに活動方法が分からず、休んでおられる方が多い
 のでは……。一面で近藤会長が呼びかけましたように、指導員の活動の
 場はいくらでもあります。今年の奈良県協議会メンバーの活動の一端
 をグラフで紹介します。ぜひ参考にして行動を。



ふうせんバレー



FD大会テント組み立て



ソフトボール大会・スコア付け



陸上強化練習サポート



水泳強化練習サポート



表彰アシスタント